

令和7年度学校評価報告書

令和8年（2026年）3月25日

北海道教育委員会教育長 様

北海道室蘭工業高等学校長 鈴木 康 礼

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- | |
|--|
| (1) 学習者主体の学びを推進
(2) 保護者や地域の信頼の上に立った教育の推進
(3) 教職員一人ひとりが力を発揮できる環境づくり |
|--|

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校運営	<ul style="list-style-type: none">・間口減を見据えた校内体制のさらなる構築が必要である。・学校運営に対し、全教職員のさらなる共通理解を図る必要がある。・校内研修のさらなる充実を図る。・危機管理に対する安全対策の一層の整備を図る。	<ul style="list-style-type: none">・全教職員の共通理解が向上しており、適切な指導の下で学校運営が行われているが、さらに定着させる具体策が望まれる。・授業指導方法や保護者意見を踏まえ、教職員間の意見交換や研修により指導の質向上を図る取組が期待される。・少子化や産業構造の変化に対応し、即戦力となる人材育成や関係機関との連携を含めた改善が求められる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none">・学校評価・職員評価制度の活用推進・教職員の共通認識をする場の設定・職員研修の活用推進・校務内規の見直し	
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none">・家庭との連携が日常的に行われている。・インターンシップを通じて、地域との連携が適切に行われている。・スクールカウンセラー及びパートナーティーチャーの活用が積極的に行われ、生徒の心理的な発達を支援する活動が行われている。・教育活動の発信を新聞等により十分行われている。・PTA活動は、活動内容の見当が必要である。・各関係機関と連携協定を締結することができた。	<ul style="list-style-type: none">・新聞報道等からも本校の地域・企業との連携は高く評価されており、地元企業との関係深化など積極的な取組が認められる。・地域機関との相互関係は良好に進展しており、これらの連携が生徒の社会的知識の習得や意識改革につながることを期待される。・少子化や社会構造の変化に対応した先進的取組として、地域・企業との連携の一層の推進が望まれ、教職員の努力により学校運営も適切に行われている。
改善方策	<ul style="list-style-type: none">・M-Conのさらなる活性化・PTA活動の活性化・家庭・地域、関係機関との連携の質の改善	
学習指導	<ul style="list-style-type: none">・学習活動が効率的かつ適正に行われるようICT環境のさらなる整備が必要である。・ICTを利活用した「朝学習」「学びあい」に取り組むことができた。今後は定着することが必要である。・生成AIについては、先生方に活用方法を提示するなど進めることができた。・学習習慣の定着、学習意欲・学力の向上の工夫がさらに必要である。	<ul style="list-style-type: none">・取組全般に対する努力は評価でき、成果が着実に表れており、今後も新たな取組による向上が望まれる。・資格取得に関する取組は教員と生徒の一体的努力で良好な成果を上げており、意義や活用方法まで含めた指導でさらに実効性が高まることを期待される。・基礎学力の向上や社会人として通用する身だしなみ・実務能力の育成に向けた取組の充実が求められる。

改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の共通認識 ・「朝学習」「学びあい」等の基礎学力向上の推進 ・ICT機器の活用に向けた授業改善 ・学習者主体の授業の推進 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・規律ある生活習慣の確立（身だしなみ、挨拶、時間を守る等）の定着へ向け、より主体的な取り組みとなるよう工夫が必要である。 ・生活指導において保護者・関係諸機関との緊密な連携はできている。 ・「学校いじめ防止基本方針」のもと、常に方針を見直し、未然防止のための取組を継続する。 ・命を大切に講話について、生徒の反応が良かった。今後も継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止に関する取組はレベルアップしており、その努力は高く評価される。 ・校内での心のケアや中途退学者への支援など、生徒へのきめ細かな対応が評価できる。 ・改善の方策を根気強く継続するとともに、卒業生の意見反映や生徒の自己コントロールの育成を通じ、より実効性のある支援体制の充実が望まれる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による一貫した指導の推進 ・命を大切さの推進 ・家庭・地域、関係機関との連携の質的強化 ・生徒理解と教育相談の質の充実 ・いじめ対応の組織的な取組 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の高揚を図る取り組みの推進が十分行われている。 ・望ましい職業観や勤労観を身に付けるような進路指導を実施した。 ・進路選択の幅を広げ、就職先とのミスマッチによる離職を防ぐねらいから、求人票をデジタル化している。 ・生徒や保護者へ進路情報の提供が積極的に行われているが、まだまだ足りていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善の方策は全てAランクに達し、実践的に実施され学校運営で着実な成果を上げている。 ・進学者への学習支援は保護者評価に改善の余地があり、時代や生徒の環境を踏まえた取組の強化が望まれる。 ・高い就職率は成果として評価でき、地元企業との連携強化により就職支援や実践的学習の充実が期待される。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した計画的進路指導の推進 ・キャリア教育のさらなる質の向上 ・インターンシップの充実 	
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・他者への貢献や知見を活用しながら、協働できる組織文化づくりが行われている。 ・地域を支える職業高校として、各関係機関と連携をすすめた。 ・働き方改革の一つとして、校務分掌を見直し仕事の平準化に取り組んだ。 ・部活動の精選が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育活動全体」が1ランクアップしており、学校運営がうまく機能して全体として良い方向に進んだことが評価できる。 ・「あなた自身が～」の項目がBランクであったことは課題であり、AI時代や個々の生活環境に起因する問題への早期対応が望まれる。 ・働き方改革を踏まえ、教員間の連携強化や役割分担を徹底し、教育活動の効率化・質の向上を図ることが重要である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・話しやすい環境、一緒に考える職場環境づくりの推進 ・組織による働き方改革のより一層の推進 ・部活動指導、校内文章等、業務の見直し ・実践的な校内研修の充実と研修成果の還元 	
公表方法	本校ホームページ、PTA総会・役員会・評議員会等で公表及び説明	

3 添付資料

- ① 令和7年度自己評価書
- ② 令和7年度学校関係者評価
- ③ 令和7年度学校評価アンケート（教職員用）
- ④ 令和7年度学校評価アンケート（生徒用）
- ⑤ 令和7年度学校評価アンケート（保護者用）